

関係機関からのヒアリング結果について

令和 2 年 9 月
科学技術・学術政策研究所

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の研究課題の設定及び成果の活用等に関して、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び SciREX 事業(科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」)関係者のヒアリングを実施した。概要は以下のとおり。

●濱口道成氏(JST 理事長) 令和 2 年 8 月 6 日

- ・コロナ禍で伸びたプレプリントの動向について、他の分野に広がり得るのか定量的な分析が必要である。特に工学などの分野においてプレプリントの潮流がパテントにも影響を及ぼすのか注視が必要である。
- ・人文社会科学系の研究は災害時のリスク管理や政策決定プロセスの応用に関して重要な役割を果たす。その調査研究自体は発展途上であるため JST としても必要性を感じている。NISTEP の調査研究にも期待している。
- ・コロナ禍で世界の情勢が変わる中、国際機関との連携では EU との関係が相対的に重要になると思われる。

●野依良治氏(JST 研究開発戦略センター(CRDS) センター長) 令和 2 年 8 月 5 日

- ・海外との関係構築について、人材の獲得、育成という観点からアジア戦略は非常に重要である。
- ・ポストコロナ時代では、競争社会から協調や連帯の時代になると予想され、日本の科学技術のクオリティを如何に高めるか、日本独自のどう技術開発を進めるか、成果を最大化するかの視点が重要となる。
- ・CRDS の有している多様な人的ネットワークを NISTEP でも活用してもらえれば良い。

●黒田昌裕氏(SciREX 事業 科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会 主査)

令和 2 年 8 月 3 日

- ・21 世紀に入ってから社会や経済の構造は大きく変化したが、その歴史観を踏まえた、構造分析が重要である。日本のこれまでの政策について振り返り、その効果検証が必要である。
- ・科学技術政策と教育政策の結びつきが弱いのではないか。NISTEP の研究成果を用いて、科学技術政策の観点から我が国の人材育成、教育政策への貴重な示唆を与えることができるのではないか。

●角南篤氏 (SciREX 事業 科学技術イノベーション政策研究センター センター長)

令和 2 年 8 月 20 日

- ・地方自治体における科学技術関連知識へのニーズの高まりが伺える。特に情報・データの分析手法等のノウハウを持った人材が必要とされている。
- ・NISTEP のノウハウについては、従来関係を結べていなかったアフリカや東南アジアといった新興国からも今後必要とされるだろう。
- ・NISTEP の機動性を高める一環として、地方自治体や新興国に対してノウハウの提供をはじめとした関係構築を図ってはどうか。また、地域の大学や地方自治体等とのネットワークを通じて、NISTEP の業務の深堀を進めてはどうか。